

おひざのうえで 2024年度⑧

(副園長の子育て応援通信)



「子どもたちで創り上げる物語」

せんりひじり幼稚園 副園長 安達かえで

先日は今年一番の寒さでしたが、発表会にお越しくださりありがとうございました。

朝は、園庭一面に雪が積もり、子どもたちが登園する前に先生たちが雪の上に可愛らしい「ひじりん」の絵を描いていました。その後、階段やスロープに積もった雪が凍っていたので、子どもたちが滑らないように、やかんのお湯で氷を溶かしたり、滑りやすいスロープにマットを敷いたりと対策をしました。また、外での待機が寒い保護者の待機場所を変更したりと、あわただしい朝となりました。園庭に積もった雪を見て「子どもたち喜ぶだろうなあ。」「普段なら朝から思いっきり雪遊びできるのに・・・。」と残念そうにホールに急ぐ先生たちの姿が印象的でした。

発表会の劇は子どもたちの好きな絵本や物語をもとに作られたものが多いのですが、物語を忠実に再現するのではなく、演じているうちにアレンジが加わり、世界に一つの物語へと進化していきました。

りんご組の「あかずきん」は、「あかずきんちゃんに友達がいたほうが楽しいよね。」と、やんちゃな「青ずきんちゃん」が登場。青ずきんちゃんの元気いっぱいな姿が、劇にいいアクセントを加えていました。



れんげ組の劇「そんごく」では、沙悟浄が三蔵法師や孫悟空を通してくれない場面で、12月の「れんげラーメン」のお店で使っていた湯切りを使って、熱々の湯切り攻撃で道を開けさせるという展開が面白くてよく考えたなあと思いました。

ばらくみの「仙人のおしえ」では、大切なことを教えてくれるはずの仙人が「お腹がすいて何も考えられない」と言い出し、かつ井屋さんがかつ井を配達することに。12月のお店屋さんの時に作った本物そっくりのかつ井が登場すると、仙人は美味しそうに食べ、お腹がいっぱいになるとやっと大切なことを教えてくれるという、笑いと感動が交互に押し寄せてくる劇となりました。



ゆりくみの「ないたあかおに」では、「青鬼が一人ぼっちになるのはかわいそうだから」と、青鬼の友達として「雪女」が登場。一緒に旅に出るというオリジナルの展開に。雪女も「魔女の森」から続けての登場で、さすがにお店屋さんプロジェクトの時から演じているだけあって、とても上手でした。年長組の子どもたちが、責任をもって言葉のバトンをつなぎながら演じている姿を見て、最初から最後までハンカチで涙を拭う保護者の方の姿に、私も胸が熱くなりました。3年間の成長を思い出すと、こみ上げてくるものがありますよね。

「表現発表会」という行事でしたが、発表すること以上に、物語の世界に入り込みながら「世界に一つだけの物語」を作り上げていく事自体が、素晴らしい経験になったと思います。登場人物の気持ちを想像し、自分の感情と重ねて合わせることで、「本当にうれしい時ってどんな顔？」「びっくりした時はどうなる？」「どんな気持ちで歩いていくなだろう ね・・・。」などなど、自然と表現力が育まれていきます。この発表会に向けた日々は、子どもたちにとって、心が大きく揺さぶられる時間だったことでしょう。



(余談ですが、発表会といえば、娘の年少の時の「3匹のこぶた」の劇を思い出します。娘は丈夫なレンガのお家を建てるブタさん役。お家を建てる場面が来ると、同じ役の3人が一緒に顔を見合わせながら嬉しそうに舞台上がっていきました。ところが、いきなり舞台の上で、ケンカが始まったのです。M君が先にレンガをくっつけた場所が、どうやら娘がくっつけようと思っていた場所だったらしく、「そこ！わたしがくっつけるところなのにい！！！」と大声で怒ってM君のレンガをはぎ取ったのです。会場中の保護者の方が一斉に私のほうを見て笑い、私は苦笑い・・・。練習の時はあんなに可愛いブタさんだったのに、本番にこんなに凶暴になるなんて・・・。M君と言い合いになり、そばにいた先生のおかげで気を取り直し、劇は無事に続きました。今では笑い話ですが、当時は「本番にケンカしないでほしいわ。」という残念な気持ちでいっぱい。今は、そんなケンカもかわいいなあと思いますし、「それもこれもあなたの娘の姿。どんな状況もまずは受け止めて、わが子の気持ちを理解してあげてね。」と当時の私に声をかけたいです。)

先日の「節分」の豆まきの時も、表現遊び真っ最中でとても面白かったので、最後に少し紹介します。鬼は全クラスを回りましたが、各クラスで「鬼さんビックリ大作戦」を仕掛けてきます。メロン組は、劇で「魚にマッサージをする」場面があるのですが、鬼が部屋に入ってくると、子どもたちが「こちらにお座りください」と椅子を出してマッサージを始めてくれます。すっかり気持ちよくなって油断している鬼に豆をなげるという作戦に、優しい鬼さんはまんまと引っかかってくれました。れんげ組では、「孫悟空」に登場する瓢箪を部屋の中央に置いて鬼を待ち構えています。金閣銀閣が名前を呼んだ相手が返事をするると吸い込まれるあの瓢箪です。れんげの子どもたちが「ねえ鬼さん」と声をかけると、「なんだ！」と返事をした鬼が瓢箪に吸い込まれていくという展開に。即興でちゃんと合わせてくれる気の利いた鬼でした。

でも・・・節分ってそんな行事でしたっけ・・・とふと思いました。これも表現遊びの一つ。子どもたちが鬼を驚かせようと考え、話し合って決めたことなので、せりりひじり流の節分は、これでいいか。発表会の劇も、節分の鬼の迎え方も、子どもたちが主体的にアレンジして楽しむことで、発想力や創造力、表現力が育まれていくのだと感じました。



ゆり組のフィナーレ！！ 会場も巻き込んで大盛り上がり